

事例 1

単語の定着を図るためのスキット作り

1 活動の設定理由

英語の基礎・基本である単語力が不足しているために、英語を話したり読んだり書いたりすることに対して自信をもてず、そのために英語嫌いになってしまう生徒がいる。そこで、授業中に学んだ単語や表現を用いて作成した簡単なスキットを使用し、コミュニケーション活動を通して単語の定着を図りたい。

2 指導目標

短い会話を通して、教科書の新出単語などを使用できるようにする。

3 授業での位置付け

授業の最後の10分～15分で、まとめの活動として行う。1時間の授業のまとめとして行っても、レッスンやパートのまとめとして行ってもよい。

4 指導手順

- ①生徒をペアにする。
- ②ワークシートを配布し、自分の答えを書かせる。
- ③なるべくワークシートを見ないで、お互いの顔を見て会話ができるように、読む練習をさせる。
- ④ペアでスキットの練習をし、相手が言った単語や文章を聞き取り、ワークシートに書かせる。
- ⑤さらに二～三人を相手に、同じようにスキットの練習をさせる。
- ⑥スキットで用いた新出単語などを、ワークシートに練習させ、書けるようにさせる。

5 指導上の留意点

- ①新出単語など生徒に覚えさせたい単語は、スキットの練習をしている間に自然に何度も発話したり聞いたりできるように、スキットを工夫する。
- ②ワークシートに、そのスキットの中で定着させたい単語を練習する欄を作っておき、最後にキーワードとして確認し、まとめとして書く練習をさせる。
- ③質問者は、相手の答えに対して、意見や感想などの「プラス 1 sentence」を、短くてもいいので言うように指導する。
- ④聞き取れなかったときに聞き返す表現や、相づちをうつなどの表現を前もって練習し、必要に応じて使うように指導する。

6 教材例

開隆堂 *English Now English Course I* Lesson 5 "Something New in Japan" (p35)
Lesson 9 "Garbage, Garbage, Everywhere!" (p71)

7 資料

- 資料① ワークシート例 I
- 資料② ワークシート例 II
- 資料③ 生徒が作成したワークシートの例

<資料② ワークシート例 II>

Lesson 9 Garbage, Garbage, Everywhere!

Class _____ No _____ Name _____

* Let's practice!

A: Do you know 3R?

B: Yes, of course. (R _____)(R _____)(R _____).

A: That's right! We produce a lot of waste and it is increasing year by year.
What can you do to solve this problem?

B: I (_____)

A: プラス 1 sentence

For example ...
have my own eco-bag / have my own eco-bottle / don't use *waribashi*
buy recycled goods / separate garbage

*Ask your friends and fill in the blanks.

name	Can he/she answer 3R?	To solve the problem, he /she ~
	R R R	
	R R R	
	R R R	

↑
相手が答えた単語を書こう!

*Write KEY WORDS 5 times.

参考

このスキットの中で扱った新出単語

produce, reduce, reuse, recycle, increase, solve, waste

<資料③ 生徒が作成したワークシートの例>

①ワークシート例 1

Lesson5 Something New in Japan

Class No Page

Let's practice!

A: Our school has lots of school events. What school events do you like?
 B: (I like field day.
 A: Why?
 B: Because (I am good at playing soccer).
 A: プラス 1 sentence

For example ...
 ceremony
 school trip
 school festival
 field day

Ask your friends and fill in the blanks.

NAME	SCHOOL EVENT	REASON
	school trip	He likes to go somewhere with his friends.
	field day	She likes sports.
	field day	He likes Mukade Race with class mates

Write KEY WORDS 5 times.

• ceremony ceremony ceremony ceremony ceremony
 • festival festival festival festival festival
 • field field field field field
 • event event event event event
 • lot of lot of lot of lot of lot of

②ワークシート例 2

Lesson5 Garbage, Garbage, Everywhere!
 Class No Page

Let's practice!

A: Do you know 3R?
 B: Yes, of course. (Reduce) (Reuse) (Recycle)
 A: That's right! We produce a lot of waste and it is increasing year by year. What can you do to solve this problem?
 B: (bring my water bottle to school)
 A: プラス 1 sentence

For example ...
 have my own eco-bag / have my own eco-bottle / don't use napkins!
 buy recycled goods / separate garbage

Ask your friends and fill in the blanks.

NAME	Can he/she answer 3R? To solve the problem, he/she ~
	Reduce Reuse Recycle He always have, "my-Hashi."
	Reduce Reuse Recycle He doesn't buy PET bottle drink.
	Reduce Reuse Recycle She has her eco-bag.

相手の答えた単語を書こう!

Write KEY WORDS 5 times.

produce
increase
waste
solve
単語は5回ずつ書きましょう!

8 考察

英単語を定着させるためにスキットを利用し、活動に「書く→読む→話す→聞く→書く」という流れを取り入れた。この活動を続けることで、生徒に見られた主な変化は次の三点である。

①最初は、生徒の中に自分の考えを英語にすることへの苦手意識があり、例示されている答えだけを使用したスキットしか作れず、自分の意見を述べるというよりは、示された例の中から選んだものを使用するというだけだった。しかし、活動を繰り返すことで、簡単な単語ではあるが英語で自分の考えを伝えられるようになったり、「プラス1 sentence」のバリエーションが徐々に増えてきたりした。

②最初はお互いに相手のワークシートを写してしまう場面も見られたが、相手が理解しやすいように、ジェスチャーを使ったり、ワークシートではなく相手の顔を見て話したりするように指導を続けることで、「分かりやすい伝え方」を意識するようになった。そのため、相手の話す内容を少しずつ聞き取ることができるようになってきた。

③聞き取れなかった時の表現や相づちをうつ表現を活用し、実際に会話として成り立つように、生徒一人一人が考えて発話するようになった。

内容を意識して発話することで、自然に英単語の言語機能を認識し、生徒の中で以前よりも英単語の定着が図られている。その結果、テストでの正答率が上昇したり、新出単語を用いて英作文をする活動に意欲的に取り組む姿勢が見られたりしている。設定された場面の中ではあるが、「生徒が自分の思いや考えを相手に伝えようとし、それを聞き取り、感想や意見を述べる」というコミュニケーション活動を英語で行うことは、生徒が感じる英語への抵抗感を減少させ、学習意欲の向上へとつなげる効果的な手段である。

9 応用例

スキットの内容は、教科書の内容ばかりではなく、生徒が興味関心をもっているものにしたり、学校行事や季節の行事にしたり、様々なバリエーションが考えられる。また、単語だけでなく、重要表現などの定着を目指すスキットもある。